

## 令和3年度 部局経営目標

年度	令和3年度	作成日	令和3年4月1日
部局名	教育委員会	部局長名	赤田 憲昭

### (1) 部局の役割・使命（ミッション）・経営方針

#### 1. 未来を担う子どもたちの育成【No.4：質の高い教育をみんなに】

地域、学校、社会教育施設、図書館、文化施設、スポーツ施設等さまざまな教育環境において子どもの長所を公正に評価し、伸ばし、それぞれの役割の明示とそれらを横断的な連携に導き、包括的な教育環境を作ることが重要です。より強靱な地域の将来を担う子どもを育てるため、これら教育環境において最大限、潜在能力を引き出す取組を推進します。

#### 2. 一人ひとりの可能性を広げる【No.4：質の高い教育をみんなに】

それぞれの価値観を互いに認めあい、市民の誰もが自らの可能性を十分に引き出し伸ばすためには、多彩で豊かな教育を受けることが必要です。それを困難にしている様々な要因を解消し、大切な人権である「教育を受ける権利」を保障するために最大限の支援と真庭で学べる選択の幅を広げます。

#### 3. 真庭を愛する「ひと」をつくる【No.1 1：住み続けられるまちづくりを】

真庭市の暮らし方や価値を認識する土台となるのは、真庭市を知ることです。地域のつながりを生かして地域文化を誇りをもって伝承しながら、市外からの評価を正確に受け止める知識と態度を養い、地域も人も成長するよう支援していきます。

#### 4. 教育を地域で支える仕組みをつくる【No.1 1：住み続けられるまちづくりを】

安全安心な地域は、それぞれが認めあい関わりあうことによって支えられ、より高まっています。世代を超えて互いを応援する教育を、教育施設の在り方も含めて真庭市で実現することで、地域の持続可能性を高めています。

#### 5. 暮らしの中にある豊かさを感じる心と体を育む【No.3：すべての人に健康と福祉を】

市民の感受性と知性を涵養するための情報や機会・交流の場、さらに健やかな人生を暮らすための「健康づくり」に自ら取り組む環境を創出・提供し、多彩な豊かさや幸せを実感する人を増やします。

#### 6. 教育施設における衛生環境の向上【No.4：質の高い教育をみんなに】

家庭環境や社会における公衆衛生意識の向上等、時代の変化に対応した衛生環境を学校現場にも創出・提供することで、子どもの公衆衛生意識を育てていきます。

### (2) 事業成果目標

#### 指標名及び目標値

#### 1-① 教育振興基本計画の策定

真庭市の教育の目指すべき姿と、その実現のために実施すべき基本施策を示す「真庭市教育振興基本計画」の第3次計画を策定します。第2次計画では、学校・家庭・地域・行政がそれぞれの役割を果たしつつ連携し、社会全体で「セーフティネット」の充実も含めた教育力を高め、すべての人の「教育を受ける権利」の保障を目指しつつ、「共育（協育・郷育・響育）」に取り組んできました。

第3次計画では、現行計画を第2次総合計画改訂版に沿って、「地域循環共生圏」、「SDGs」、「共生社会」、「学校と地域との連携」及び「高校の魅力化」の推進の観点から見直しを図ります。

指標:計画の策定

目標値:令和4年3月

新規

<p><b>1-② 高校魅力化推進事業</b></p> <p>高校は、生徒のより良い成長はもちろん、活気があり持続可能な地域をつくる上でも大切な役割を果たしています。しかし、生徒数の減少や市内高校の定員減少の中で、市内中学生の市内高校への進学割合は低下しており、高校の持続と教育の充実は喫緊の課題となっています。</p> <p>その課題解決のために、小中学校と高校の連携した学習や行事に取り組みます。また、真庭の地域資源を生かした高校の学習を支援し、キャリア教育の一貫性を高めるとともに、高校、地域とともに高校の魅力化を進めます。</p>	<p>指標：①市内高校進学割合 ②教員合同研修回数</p> <p>目標値：①70% ②5回</p> <p>新規</p>
<p><b>2-① 授業改善による学力向上</b></p> <p>全国及び県学力・学習状況調査の結果を活用し、分析と研究、教員による語り合いと研修を各学校で行い、授業改善に向けた取組を推進します。授業と家庭学習をつなぐ仕組みづくり、デジタルドリルの活用による基礎基本の充実、放課後学習サポート事業による学習習慣の定着と学力補充、地域ボランティアによる学習支援等の取組を推進し、安定した学力の定着を図るとともに、学力の下支えとなる学習意欲の向上に努めます。</p>	<p>指標：国語、算数・数学、外国語の授業が好きだと回答する児童生徒の割合</p> <p>目標値：70%</p> <p>(令和2年度実績値：63%)</p>
<p><b>2-② 中学校における英語教育</b></p> <p>中学校の英語授業の改善に取り組むと同時に、英検補助事業の周知を図り、課題に挑戦する態度を養い、中学校卒業段階で英検3級程度の英語力を持つ生徒の育成を図ります。令和2年度は、新型コロナの影響で1学期に実施できなかったこともあり、英検補助事業利用者は3級が46人、準2級が12人、2級が1人と、前年より人数が減っています。改めて事業を周知し、今年度の受験者の割合増加を目指すとともに、英検3級程度以上の英語力を有する生徒を育成していきます。また、小学校段階からのALT派遣を通して、英語への慣れ親しみを大切にすることで苦手意識の軽減を図りつつ、英語力の向上を目指します。</p>	<p>指標：英検3級程度の英語力を有する生徒の割合</p> <p>目標値：50%</p> <p>(令和2年度実績値：44%)</p>
<p><b>2-③ ICT環境の整備（GIGAスクール構想の実現）</b></p> <p>GIGAスクール構想の実現に向け、令和2年度においてネットワーク整備やタブレット端末の導入が完了しました。令和3年度からは、教員によるICT機器の活用促進に加えて、児童生徒による1人1台端末の活用を進めます。AR（拡張現実）を活用した郷育の推進や、日々の授業におけるデジタルドリルの活用等、学校同士の交流連携や個別最適化に向けた取り組みを行い、児童生徒の端末活用の促進を図ります。</p>	<p>指標：毎日PCを利用して学習していると回答する児童生徒の割合</p> <p>目標値：70%</p> <p>指標変更 (令和2年度実績値：毎日ICT機器を活用していると回答する教員の割合86%)</p>

<p><b>2-④ インクルーシブ教育の推進</b></p> <p>真庭市が目指す「共生社会の実現」に向け、小中学校においてインクルーシブ教育の推進を図ります。通常学級における特別支援教育の観点の向上を図り、巡回指導により共に学ぶ体制作りを推進します。令和3年度から木山小に通級サテライト教室を設置し、市内3校（八束小、遷喬小、木山小）において通級指導を行う体制を整えています。また、個別支援の充実と関係機関、校種間等での連携強化を図ることで、切れ目のない支援体制を構築していきます。また、教職員の力量向上のために研修の充実を図り、すべての児童が安心して学ぶことができる学校づくり・学級づくりを支えます。</p>	<p>指標：特別支援学級の児童生徒が在籍する通常学級のうちの「満足型学級」の割合</p> <p>目標値:50%</p> <p>指標変更 (令和2年度実績値：支援学級児童生徒の在籍する通常学級の学級満足度25%)</p>
<p><b>3-① キャリア教育の推進</b></p> <p>各学校において児童生徒が様々な経験を通して、社会的・職業的自立に向け必要となる能力や態度を育てていきます。昨年度よりキャリアパスポートの活用も始まり、自らの目標や行動を定期的に振り返ることで、児童生徒が自らの力で生き方を選択するために必要な能力や態度の育成を図ります。また、「郷育（ふるさと学習）」を核とした取組として、パイオマスツアーの全小学校での実施、SDGs スタートブックの作成推進等、ふるさとを知り、学び、考える活動を通して、未来を切り拓く力を育成し、自己肯定感の向上を図ります。</p>	<p>指標:自分には良いところがあると思う児童生徒の割合</p> <p>目標値:小学校85%、中学校85%</p> <p>(令和2年度実績値： 小学校77% 中学校82%)</p>
<p><b>4-① 学校給食の地産地消の推進</b></p> <p>学校給食を「郷育」の一環と位置づけ、児童生徒と農業者を繋げ、食材を通じた真庭の豊かさを知る機会を提供します。真庭市の食材のみを使用した「真庭食材の日」、通常の給食に真庭市の特産品を一品加える「真庭特産品プラスワンの日」を実施し、その評価により課題を検証し地産地消の推進に努めます。（4品目＝じゃがいも、玉ねぎ、大根、キャベツ）</p> <p>また、学校給食の材料に真庭市産品を使うことで市内での回る経済の仕組みをつくります。そのため、給食における市内産品使用について全量調査を行いながら生産者や納入業者などと安定した価格設定について協議を行い、目標値達成に向けた食材調達確保に努めます。</p> <p>給食材料に真庭市産を使うことと併せて、生産者による講話の機会を通じて児童生徒と地域をつなげながら食育と郷育を進めます。「真庭食材の日」：3回／年。「真庭市特産品プラスワンの日」：6回／年。</p>	<p>指標:4品目の地産地消率</p> <p>目標値:じゃがいも10%、玉ねぎ20%、大根45%、キャベツ40%</p> <p>(令和2年度実績値：じゃがいも30.0%、玉ねぎ52.5%、大根83.9%、キャベツ67.5%) ※旬時期から通年の目標値へ変更します。 参考(令和2年度通年の実績値：じゃがいも3.2%、玉ねぎ14.1%、大根37.1%、キャベツ29.0%)</p>

<p><b>4-② 地域と協働する学校作り</b></p> <p>学校と地域と家庭が、自分たちの地域の子どもの目指す姿を共有し、子どもを真ん中にした地域づくり・学校づくりをすすめるため、学校運営協議会（コミュニティスクール）の設立を推進します。平成31年度に3校、令和3年度に6校が学校運営協議会を設立し、地域と共にある学校を目指した取り組みを進めています。学校への資料提供や説明会の実施を行う等、学校と地域と家庭が共に子どもを育む体制として、また、地域の学校参画の形としての学校運営協議会制度への移行を支えます。</p>	<p>指標：R3年度学校運営協議会実施決定校数</p> <p>目標値：10校</p> <p>(令和2年度実績値：6校)</p>
<p><b>4-③ (仮称)落合学校給食共同調理場整備の推進</b></p> <p>真庭市小・中学校給食施設整備計画に基づき、安全・安心で効果的な学校給食の共同調理場化事業を進めています。令和3年8月に本体工事の完成を予定し、令和4年4月からの給食提供に向けて体制を整備します。</p> <p>併せて、市内6共同調理場を食育センターとして機能充実させ、また、八束小学校給食調理場との管理運営の一元化を行うため、栄養士、事務員、調理員の配置方針を再検討します。</p>	<p>指標：給食提供体制整備</p> <p>目標値：竣工期日：令和4年3月31日</p> <p>指標変更 (令和2年度実績値：工事請負契約締結令和2年9月29日議決)</p>
<p><b>4-④ 学校給食費の公会計化</b></p> <p>平成31年度の給食費の統一を皮切りに、令和2年度から公会計を導入し、市全体で約2億円の給食材料費を効率的に徴収し、学校事務負担の軽減と市全体の給食費管理の透明化を図ります。</p> <p>併せて、公会計により導入した給食費管理システムにおいて、個人ごとの喫食数、アレルギー食、保護者の情報管理を行い、一元的に収納事務に取り組みます。</p>	<p>指標：給食費収納率(3月31日時点)</p> <p>目標値：100%</p> <p>(令和2年度実績値：99.79%)</p>
<p><b>5-① 生涯学習基本計画の策定</b></p> <p>少子高齢化や人口減少、人生100年時代、Society5.0、グローバル化、コロナ禍などの社会の変化を見据え、多様化する地域課題解決のために、主体的な学びや多様な人々との協働が求められています。これからの時代を乗り越え、新たな価値を創造していくためには、市民自ら学び、自立した市民によって、自己実現が行われ、学習成果を活用して地域課題解決に寄与できる資質・能力を身につける必要があります。</p> <p>また、類似する社会教育施設等のさまざまな機能が持続可能なものとなるようあり方を見直す時期に来ています。真に市民にとって必要とされる施設となるよう、市民や様々な関係団体とつながり、生涯学習を再構築するための基本計画を策定していきます。</p>	<p>指標：①計画の策定 ②真庭市に住み続けたい人の割合</p> <p>目標値：①完成：令和4年3月31日②85%以上</p> <p>新規</p>

<p><b>5-② 文化財収蔵施設整備（改修）</b></p> <p>旧阿口小学校校舎を、文化財資料の収蔵施設として再生、活用していきます。これにより、分散していた資料の一元化・集約化を図り、効率的な管理体制を確立するとともに、老朽化した現行の収蔵施設（旧北房中央公民館、旧勝山図書館、旧蒜山郷土館）を解体し、跡地の有効活用も可能となります。また、新たな収蔵施設には、生涯学習的な機能も持たせ、収蔵している民具等の活用などと併せて、地域づくりにも寄与していきます。</p>	<p>指標:収蔵施設集約化</p> <p>目標値:3施設から1施設へ</p> <p>新規</p>
<p><b>5-③ 市民大学講座の開催</b></p> <p>まにわ市民大学講座は、歴史、文化、産業など様々なテーマから、全国的にも著名な講師を招き、市民等に学びの場を提供していきます。単なる学びの場としてではなく、一人ひとりが関心を高め、自身で調べ、実践する機運を醸成し、知の循環をつくる第一歩とします。幅広い世代の学習意欲や知的探究心をくすぐる講座を実施していきます。真庭の魅力を市民へ伝えるとともに、全国へ向けて情報発信を行います。真庭市のイメージアップを図る「地域創造講座」開催にあたっては、市民と一緒に開催していきます。また、ふるさとを知り、ふるさとへの思いを育てる「郷育講座」を実施し、地域づくりに寄与していきます。</p>	<p>指標:①講座参加者数（オンライン参加含む） ②市民協力者数</p> <p>目標値:①500人②10人</p> <p>指標変更 （令和2年度実績値：講座参加者数252人）</p>
<p><b>5-④ 市民に親しまれる図書館づくり</b></p> <p>「真庭市図書館みらい計画」において、「真庭市立図書館は、市民や団体による地域自治の拠点として積極的な役割を果たすこと」を使命としました。</p> <p>真庭市立図書館は、①公共図書館としての存立基盤の整備、②子どもの学びへの能動的な貢献、③地域資源の再評価と新たな価値の創出、④利用者の知的探究に応えるコンテンツ提供、⑤市民が繋がる地域の交流拠点創出、を行い、地域における課題解決と未来創造の拠点となることを目指します。</p> <p>「真庭市図書館みらい計画」策定にあたって開催した「図書館そだて会議」を引き続き開催し、市民と図書館が対話を重ね、市民とともに図書館の運営状況の確認を行っていきます。</p>	<p>指標:①実貸出利用率②「図書館そだて会議」の開催回数</p> <p>目標値:①12%②7回以上</p> <p>指標変更 （令和2年度実績値：①年間貸出5.9冊／人②計画改定パブリックコメント実施中） ※「図書館みらい計画」の指標に準じ指標を変更します。</p>

<p><b>5-⑤ 中央図書館の拠点機能の強化</b></p> <p>中央図書館では、学校図書館への司書の派遣、地区図書館の支援や合同イベント、研修会の開催など、地区図書館と学校図書館との連携強化を行います。</p> <p>また、令和3年度からは、ボランティアの力を借りながら学校図書館蔵書のデータ化を行う事業に取りかかり、登録作業の支援を行います。また、市立図書館が学校支援用の蔵書を整備し、学校図書館へ貸し出すことで、蔵書の効果的な活用を行い、子どもの学びへの能動的な貢献に取り組めます。</p>	<p>指標:①学校図書館のデータ化着手、②市立図書館から学校図書館への資料の貸し出し</p> <p>目標値:①13校、②全校(26校)</p> <p>指標変更 (令和2年度実績値:①ワークショップの回数14回 ②学校図書館への貸出し冊数15,225冊) ※「図書館みらい計画」の主要事業に関連した指標へ変更します。</p>
<p><b>6-① 学校校舎のトイレ環境の向上</b></p> <p>学校における衛生環境の向上を目的に、トイレの洋式化と乾式化の工事を令和2年度9月補正から取り組んでいます。そのうち、校舎内のトイレについては、洋式化工事にあわせて床の乾式化工事をすべてのトイレで実施します。</p> <p>令和2年度9月補正繰越:遷喬小体育館、檜邑小体育館、美甘小体育館、勝山中体育館 令和3年度当初:河内小、遷喬小、川上小、勝山中、湯原中 令和3年度6補:天津小、美川小、草加部小、米来小、美甘小、中和小、八束、北房中、久世中</p>	<p>指標: 屋内トイレ床の乾式化</p> <p>目標値:100%</p> <p>新規</p>